

概 説

令和5年4月の「こども家庭庁」の創設を契機として「こども基本法」の施行、「こども未来戦略」の策定、「こども大綱」の策定、「放課後児童対策パッケージ」の策定など、子ども・若者や子育て世代の施策を巡る国の動きが本格化しています。令和6年4月から改正児童福祉法が施行され、今回の改正では「こどもの権利条約」の理念に基づき、子どもの権利擁護や意見聴取に係る環境を整えることが求められています。

一方、京都市においても「京都市子ども・若者総合計画（京都市はぐくみプラン）」が策定され向こう5年間の子ども・若者を巡る基本計画が明らかにされました。このプランの中で、子どもの居場所として、また子どもの意見聴取と反映の場として児童館の活用を謳い、また今後京都市が目指す「居場所と出番のある」子ども・若者にやさしい街づくりの拠点的作用を担う施設として児童館が大きく位置付けられています。このプラン策定にあたっては京都市における子どもの意見聴取やニーズ調査に学童クラブ登録児童を中心に連盟から5,000名を超えるアンケート調査に協力し、また子どもの意識や意見を聴取するワークショップを全ブロックで開催し、合わせて300名を超える子どもたちが参加しました。年末には松井京都市長を始め、子ども若者はぐくみ局長、部長などおおくの市幹部の方々と子どもたちが直接意見交換する場を児童館を会場に開催し、ゲームなども交え、和やかな雰囲気の中で行いました。各館所のご協力にあらためて感謝いたします。

令和6年度は京都市におけるプラン策定と並行する形で事業推進委員会を核として「京都市児童館活動指針」の改訂を行いました。子どもと子育てを巡る状況と上述したような情勢の変化を踏まえ、今後求められる児童館・学童クラブ事業のあり方、役割を明らかにしました。令和7年度以降はこの指針の理解と実践の推進を図るため、説明会や学習会の開催を予定しています。

連盟では毎年行政に対して職員処遇の改善について要望しているところですが、人件費相当額の算定基準が見直され、特に若年層の月例給基準が大幅に改善されました。京都市のご理解と英断にあらためて感謝いたします。しかし、依然として人材の確保と定着は大きな課題となっており、処遇施設委員会においても「職員充足状況アンケート」を全館所対象に実施したところ、過去1年間の離職者の内、経験が5年以内の20～30代の職員が多いという結果となりました。新規採用職員を対象に連盟として初めて「合同入職式」を開催しました。この取組は採用法人の枠を超えて連盟全体として「同期意識」「仲間意識」を醸成し仕事の魅力を発信し、職員定着の一助とすることを目的に開催しました。一方で、いわゆる「4週8休制」の導入を実施した施設や実施を検討している施設も増加しており、職員処遇を見直す法人、施設が増加傾向にあります。

学童クラブ利用者の利便性の向上と職員の事務負担の軽減を目的に連盟会員施設に一斉導入を図ったICT事業も導入から3年目となり、仕組みとしては定着してきています。6年度は連盟事務局にシステムの開発・運営を担う業者社員を常駐させ、システムへの質問や不具合などにいち早く対応するサポート体制に改善しました。あらためて子どもの権利擁護が国の中心的課題になる中で、児童館・学童保育所の活躍が期待されています。以下にその活動を振り返ります。

I 健全育成・子育て支援事業

1 各委員会活動

(1) 事業推進委員会

1 令和6年度 事業目標

「京都市児童館活動指針」（以下、「活動指針」という）の浸透を図り、児童館・学童保育所が「活動指針」に基づいた活動を推進することを支援し、児童館・学童クラブ事業の全市的発展・推進を図ることを目的としています。

国においては、令和5年4月よりこども家庭庁の創設、こども基本法の施行がされ、その理念を推進するためのこども大綱が令和5年12月に閣議決定されました。これらは、すべてのこども若者が身体的・精神的・社会的に幸せな状態（ウェルビーイング）で生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現を目指す内容となっています。また、こども大綱と同日にこどもの居場所づくりに関する指針が閣議決定され、児童館・学童クラブにおいては、学童期のこどもの居場所の機能としての役割が期待されています。

令和6年度は、このような児童館・学童クラブ事業を取り巻く現状を受けて、京都市子ども・若者総合計画「京都市はぐくみプラン」の次期プランの策定を見据え、活動指針についての見直し作業を行い、令和6年度中の発行を目指します。

2 令和6年度 活動報告

国においては、「児童の権利に関する条約」の理念を基本として令和5年4月に「こども基本法」が施行され、また、同年に「こどもの居場所づくりに関する指針」が閣議決定されました。それらの内容を踏まえ、令和6年12月に児童館ガイドラインの改正、また、令和7年1月に放課後児童クラブ運営指針の改正が行われました。

そして、京都市においては、令和7年4月を始期とする京都市子ども・若者総合計画「京都市はぐくみプラン2025-2029」が策定されることから、それらの内容を踏まえつつ、活動指針についての見直し作業を行いました。

令和6年度 活動実績

月	活動内容／指針に関わる動き	委員会／会議
4月		
5月	活動指針改訂に向けて検討・準備 年間の活動計画の決定 各ブロックからの意見集約	第1回正副委員会（5／1） 第1回委員会（5／22）

6月		第2回正副委員会（6／18） 第2回委員会（6／21）
7月	7～8月にかけて各委員による改訂作業	第1回統括会議（7／12） 第1回Bチーム会議（7／18） 第1回Aチーム会議（7／19）
8月		第2回統括会議（8／29）
9月	A／Bチームそれぞれで改訂箇所及び各委員による2回目の改訂作業	第3回統括会議（9／2） 第4回統括会議（9／9） 第2回Bチーム会議（9／18） 第2回Aチーム会議（9／27）
10月	全委員による進捗状況の確認・共有 子ども等への意見聴取	第3回委員会（10／16）
11月	統括会議での最終確認作業	第5回統括会議（11／22） 第6回統括会議（11／26）
12月		第7回統括会議（12／9） 第8回統括会議（12／16）
1月	活動指針第5次改訂版草案 子ども等の意見まとめ（案）	第9回統括会議（1／20） 第4回委員会（1／22）
2月		
3月	今年度の総括 次年度の計画（案）の決定	第5回委員会（3／4）

（2）処遇・施設委員会

1 令和6年度 事業目標

「京都市はぐくみプラン」ならびに、「活動指針」を推進する立場から職員処遇、施設・設備のあり方を検討しながら、令和7年度の京都市予算の要望項目の検討を行っていきます。また、若年層（経験年数5年以内）の離職者が増えてきている現状と、求職者の傾向として年間休日の日数や年休の取りやすさ、残業の少なさ等を重視する傾向がみられる中で、連盟運営館で試行している4週8休制について引き続き検討を進めていきます。

2 令和6年度 活動報告

今年度の要望項目の検討として、「京都市児童館事業委託料（人件費相当額）算定基準」の水準の底上げと級位制の導入を求めること、また、産休・育休等取得者が年度途中からの復帰する場合、現在の給与積算の考え方では不足が生じる場合があることの改善、1クラス運営の学童クラブ職員配置基準の見直しについて昨年度からの継続的な要望項目として伝え続けることを確認し、また分室や施設外クラスといった施設を分けて運営することの厳しさを鑑みて、施設外クラス及び分室の設置場所を学校等との「共有」ではなく、「専有」とすることを求めることや、責任と権限を有する施設長に変わる責任者を配置することについては、昨年度より強く要望することを確認しました。

昨年度から連盟運営館で実施している「4週8休制」についての報告書の説明会を開催しました。

一方、人材不足の状況が続いていることから、「職員充足状況アンケート」を実施し、過去1年以内に退職した職員の年齢や経験年数について調査しました。

その結果、経験年数5年以内の20代から30代の若年層の退職者多いという結果となりました。

3 令和6年度 活動実績

5月 8日（水）	正副委員長会議
5月22日（水）	第1回処遇施設委員会
7月 2日（火）	第2回処遇施設委員会
7月 9日（火）	「4週8休試行実施報告書」説明会
10月15日（火）～26日（土）	「職員充足状況アンケート」実施
3月 5日（水）	第3回処遇施設委員会

（3）予算対策特別委員会

1 令和6年度 事業目標

予算対策特別委員会は、各専門委員会の来年度予算に係る意見等を集約した上で要望書を策定し、京都市に提出する中でより一層の予算の拡充を目指します。

2 令和6年度 活動報告

7月 1日 (月)	第1回 予算対策委員会
7月16日 (火)	第2回 予算対策委員会
9月18日 (水)	理事会において要望書(案)確定
10月3日 (木)	連盟三役 要望書提出(速報発出)
2月 7日 (金)	京都市、「要望書」に対する回答(速報発出)
2月13日 (木)	第3回 予算対策委員会

令和7年度の関連予算は、前年対比で8億円の増となった。人件費相当額の見直しがなされ、平均で月例給9.3%の引き上げで、若年層への引き上げが大きく最大で14.01%の引き上げとなった。合わせて期末勤勉手当相当額0.1月分の引き上げとなった。これらの引き上げは近年にない大幅なプラス改定であり、職員の確保と定着の観点から歓迎するものであり、京都市のご努力と英断に感謝するものである。しかし、要望書に記載した各種の要望で実現していない項目も多く、委員会としては引き続き要望活動を行っていききたい。

(4) 研修委員会「2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修」の項を参照。

(5) 統合育成委員会「3 障害のある児童の統合育成事業」の項を参照。

(6) 広報委員会「4 広報活動」の項を参照。

(7) やんちゃフェスタ 2024 実行委員会「5 京都やんちゃフェスタ 2024 の開催」の項を参照。

2 児童館・学童保育所職員の資質向上のための研修

1 令和6年度 事業目標

「京都市児童館活動指針」に基づき、児童館・学童保育所職員の資質向上を目的に、京都市から受託する児童館・学童保育所職員研修事業を実施します。

中堅職員向けの研修では、児童館を取り巻く現状と、児童館の魅力や意義を伝えていきます。また、施設長向けの研修ではコンプライアンスや施設マネジメント等の研修を通し、倫理意識の高い組織づくりを目指して運営を行っていただけるような内容を取り入れていきます。

2 令和6年度 活動報告

令和6年度 京都市児童館・学童保育所職員研修会について、研修体系にのっとった科目を実施しました。研修形態は研修効果を考慮して集合研修を実施しました。

各研修会は毎回概ね100名前後の参加者を迎えており、各施設の職員育成への関心の高さがうかがえます。また、ブロック企画研修（「児童館・学童クラブ活動研究Ⅰ」）については、新型コロナウイルス感染防止対策として、各ブロックで年1回の実施としていましたが、令和6年度から、従来通り年2回の実施に戻しました。そのことにより、地域性をいかした内容や、児童館・学童クラブ活動の交流等、多数の職員が学ぶ機会となりました。

中堅職員派遣研修については、他法人、他ブロックの児童館で約2週間の研修を行うことから、通常の研修会では得られないような貴重な経験を得る研修となっています。受け入れる児童館にとっても、活動を展開する上で他館の職員から違う視点を得る刺激となっており、委員会では中堅派遣研修の持つ、このような研修効果の高さを確認し、研修委員が各ブロックで積極的な参加を呼びかけました。

一般財団法人 児童健全育成推進財団主催の研修への京都市からの研修派遣については、現地での対面形式やZ o o mを用いたオンライン形式で実施されました。各施設でのオンライン研修受講環境が整ってきたこともあり、安心して派遣研修に参加することができました。

今年度は新規入職者に対して「合同入職式」を行いました。この取組は法人の枠を超えて新規入職者を一堂に集めて「同期意識」「仲間意識」を醸成する中でお互いを刺激しあえる関係づくりを目指して開催したものです。

- (1) 委員会（年間5回：4月、6月、9月、11月、2月）
 - ・ 行政研修、派遣研修の内容や予定の確認と、実施した研修の報告
 - ・ 全7ブロックで実施するブロック企画研修の立案、企画、事後報告
- (2) 研修会
 - ① 行政研修
 - ② (一財) 児童健全育成推進財団への研修

① 行政研修 ※ () は受講者数のうち、外部受講者の人数を示す

基礎（初任者）研修会

参加者数：「健全育成論」71名（14）
：「児童館論Ⅰ」59名（1）
：「京都市の児童館・学童クラブ事業」75名（17）
：「児童館論Ⅱ」57名（1）

日 時：4月25日（木）・26日（金）

講 師：「健全育成論」 國重晴彦（京都市児童館学童連盟 健全育成・子育て支援統括監）

「児童館論Ⅰ」 溝口晋太郎 氏（たかつかさ児童館 館長）

「京都市の児童館・学童クラブ事業」 中山あい 氏（西陣児童館 館長）

「児童館論Ⅱ」 古田敏恵 氏（住吉児童館 館長）

救急法「普通救命講習Ⅲ」

参加者数：101名（28）

日 時：5月14日（火） 左京消防署
5月17日（金） 南消防署
5月20日（月） 上京消防署
5月22日（水） 山科消防署
5月27日（月） 右京消防署
5月28日（火） 西京消防署
5月29日（水） 伏見消防署

安全指導・安全管理

参加者数：103名（37）

日 時：5月13日（月）

講 師：金坂尚人 氏（神戸市六甲道児童館 館長）

テ ー マ：安心して自己チャレンジできる場所をめざして

中堅職員派遣研修

派遣者数：20名

事前説明会 6月3日（月）

事前研修会（オリエンテーション）7月17日（水）

派遣研修期間 9月5日（木）～20日（金）

事後研修会（研修者報告会）10月23日（水）

事後報告会（施設長報告会）10月28日（月）

実技研修

第1ブロック「野外活動」

参加者数：32名

日 時：6月7日（金）

講 師：澤田猛志 氏（公益財団法人 京都YMCA）

第2ブロック児童文化財活用法

参加者数：35名

日 時：6月6日（木）

講 師：上坊信貴 氏（すたらぼ 代表）

第3ブロックゲーム・運動遊び

参加者数：49名

日 時：6月20日（木）

講 師：袋布信哉 氏（京都市児童館学童連盟 主任厚生員）

第4ブロック科学遊び

参加者数：35名

日 時：6月13日（木）

講 師：小林將浩 氏（認定特定非営利活動法人コアネット）

第5ブロック音楽表現活動

参加者数：34名

日 時：6月5日（水）

講 師：市川洋子 氏（リトミック研究センター）

第6ブロック造形表現活動

参加者数：33名

日 時：6月12日（水）

講 師：水野哲雄 氏（幼保連携型認定こども園 ふたば幼稚園 園長）

第7ブロック身体表現活動

参加者数：35名

日 時：6月27日（木）

講 師：隅地菜歩 氏

阿比留修一 氏（Dance Company Selenographica）

配慮を要する児童の対応

参加者数：93名（24）

日 時：7月4日（木）

講 師：磯部美也子 氏（奈良大学 社会学部 教授）

テ ー マ：発達に課題のある子どもの理解と支援

児童文化財活用法2

参加者数：40名

日 時：7月10日（水）

講 師：はるる 氏（ヤッサン一座の紙芝居）

テ ー マ：紙芝居を10倍楽しく見せるには？

ブロック企画研修①

第1ブロック

参加者数：27名

日 時：9月25日（水）

テ ー マ：遊びの実践交流会

講 師：研修委員が担当

第2ブロック

参加者数：20名

日 時：9月10日（火）

テ ー マ：本でつながる居心地の良い居場所づくり

講 師：花田睦子氏（えほん館）

第3ブロック

参加者数：26名

日 時：10月30日（水）

テ ー マ：児童館で遊ぼ～遊びの実践、みんなどうしてる？～

講 師：研修委員が担当

第4ブロック

参加者数：22名

日 時：9月30日（月）

テ ー マ：子どもの現状、ビジョントレーニングを通して考える

講 師：山内美紀 氏（プロフェッショナルビジョントレーナー）

第5ブロック

参加者数：22名

日 時：10月2日（水）

テ ー マ：子どもにとって遊びとは

講 師：岩城敏之 氏（有限会社キッズいわき 代表取締役）

第6ブロック

参加者数：24名

日 時：10月7日（月）

テ ー マ：おたよりや広報・SNSなどの効果的な発信の仕方を学ぶ

講 師：山中美知世 氏 穂積幸弘 氏（特定非営利活動法人 やさしいデザイン）

第7ブロック

参加者数：22名

日 時：10月8日（火）

テ ー マ：幼児期の発達に合わせたからだの使い方

講 師：松本健作 氏（Smile Enjoy Club代表）

参加者数：108名（17）

日 時：10月15日（火）

講 師：河村浩世 氏（京都芸術大学 子ども芸術学科 専任講師）

テ ー マ：地域の中で子どもと保護者に寄り添う「ソーシャルワーク」実践
～一人ひとりを大切にする対話とは何か～

障害のある児童の統合育成

参加者数：128名（58）

日 時：10月24日（木）

講 師：小田健司 氏（京都市立北総合支援学校・京都市立北総合支援学校中央分校 校長）

テ ー マ：特別な支援を要する子どもの指導と支援について

児童の発達理論（思春期）

参加者数：115名（48）

日 時：11月11日（月）

講 師：西村佐彩子 氏（京都教育大学 教育学科 准教授）

テ ー マ：思春期の発達を考える

中堅研修「プレゼンテーション術」

参加者数：37名

日 時：11月20日（水） ・ 11月27日（水）

講 師：森際孝司 氏（京都光華女子大学 短期大学部 ライフデザイン学科 教授）

テ ー マ：心に響くプレゼンテーション

ブロック企画研修②

第1ブロック

参加者数：23名

日 時：2月6日（木）

テ ー マ：インターネット・スマホの影響と付き合い方

講 師：岩佐恭子氏（ガールスカウト連盟・情報モラル市民インストラクター）

第2ブロック

参加者数：16名

日 時：11月13日（水）

テ ー マ：遊びの引き出しの増やし方～運動遊びプログラム JUMP-JAM から学ぶ～

講 師：袋布信哉氏（京都市児童館学童連盟 主任厚生員）

第3ブロック

参加者数：33名

日 時：2月17日（月）

テ ー マ：児童館での遊び～職員として大切にしたいこと～

講 師：三浦正人 氏（御室児童館 館長）

第4ブロック

参加者数：26名

日 時：1月22日（水）

テ ー マ：遊びの実践

講 師：研修委員が担当

第5ブロック

参加者数：20名

日 時：1月29日（水）

テ ー マ：アフターコロナにおける事業の変化 ～遊びの内容・種類の共有～

講 師：研修委員が担当

第6ブロック

参加者数：25名

日 時：2月3日（月）

テ ー マ：各館のおすすめの遊びを紹介・実践する

講 師：研修委員が担当

第7ブロック

参加者数：22名

日 時：1月14日（火）

テ ー マ：遊びの実践交流会

講 師：研修委員が担当

人権研修

参加者数：142名（53）

日 時：1月27日（火）

講 師：長瀬正子氏（佛教大学 社会福祉学部 准教授）

テ ー マ：子どもの声を聴く～子ども時代の自分と子どもの権利をつなげて学ぶ～

施設長研修

参加者数：94名

日 時：2月19日（水）

講 師：田爪宏二 氏（京都教育大学 教育学部 教授）

テーマ：遊びは学び～学童期の遊びと非認知能力の育ち～

合同入職式

新規採用職員が京都市内の児童館・学童保育所で職務に従事している意義と役割を知り、誇りを持って働いていける機会になるようにすること、また、職員相互が知り合える機会を設け、運営団体を越えた、「同期」として仲間意識や支え合いが生まれるような機会をつくることを目的に、新規採用職員を対象に今年度の新たな取組として合同入職式を実施しました。

<対象>

連盟会員施設の以下の新規採用正規職員

- ・令和6年4月1日付け採用者
- ・令和5年4月1日～令和6年3月31日までに採用された方

<内容> 日 時 6月14日（金）午前10時～ 会 場 都ホテル京都八条

9：30	受付開始
10：00	<第1部> ・開式 ・挨拶（公益社団法人京都市児童館学童連盟 稲川昌実会長） ・来賓祝辞（松井孝治京都市長ビデオメッセージ） ・京都市児童館学童連盟 事業紹介動画 ・記念撮影
10：30	<休憩>
10：45	<第2部> グループワーク
12：00	<第3部> 懇親会（昼食）
13：45	・閉式

式典では今回の合同入職式のために特に撮影した松井孝治 京都市長のビデオメッセージを投影し「京都市は市民にとって子育てしやすい都市となるようにさまざまな取組をしている。児童館や学童保育所は、子育て支援の重要な役割を担っており、入職された職員の皆さんもその一員として活躍されることを願っています。」とのご挨拶をいただきました。

グループワークでは、数名のグループに分かれて、各グループで「地元のおすすめ」「就職したきっかけ」「働いてみてわかったこと」「児童館・学童保育所でこんなことやってみたい、こんな職員目指したい！」をトークテーマとして、付箋に各自の意見を書き出し、模造紙に貼り出しながら、共有のための話し合いを進めました。

懇親会ではバイキング形式による食事を楽しみながら、参加者が自由に移動し、歓談する和やかな場となりました。懇親会の終わりに、先輩職員からのメッセージ動画を視聴しました。令和7年度からは、研修委員会の取組から連盟全体の取組として新たに位置づけて開催します。

上級研修

参加者数：26名

日時：2月27日（木）

講師：宇野明香氏（NPO法人 happiness 理事長）

テーマ：居場所とは何か～NPO法人 happiness の実践から考える～

②（一財）児童健全育成推進財団への派遣研修

児童厚生員等基礎研修会（東京会場）

期間：7月2日（火）～5日（金）

派遣者：小林真由美 厚生員（室町）

北岡結 厚生員（嵯峨）

渡辺海 厚生員（北白川）

永野真菜美 厚生員（大塚）

市川由美子 厚生員（うずらの里）

児童厚生員等基礎研修会（大阪会場）

期間：9月3日（火）～6日（金）

派遣者：辻本美咲 厚生員（室町）

廣岡奈津美 厚生員（嵐山東）

高尾彩加 厚生員（うたの・ひこばえ）

萩原知佳子 厚生員（桃の里）

比嘉順葉 厚生員（桂坂）

全国中堅児童厚生員等研修会

期間：10月16日（水）～18日（金）

派遣者：木下里美 厚生員（醍醐）

金森美奈実 厚生員（嵯峨野）

國府萌子 厚生員（新林）

関谷菜美子 厚生員（大原野）

全国児童厚生員等指導者養成研修会

期間：12月11日（水）～13日（金）

派遣者：勝守昭子 館長（桂徳）

安楽一 厚生員（南浜）

全国子どもの健全育成リーダー養成セミナー

日 時：2月21日（金）
派遣者：木戸玲子 館長（修徳）
堀川宗子 館長（中唐戸）
西尾久美 館長（明德）
今津敏一 館長（桃の里）
古田敏恵 館長（住吉）
吉田功 館長（納所城之内）

児童厚生1級特別セミナー

日 時：3月7日（金）
派遣者：小倉真由美 館長（神川）

3 障害のある児童の統合育成事業

1 令和6年度 事業目標

- (1) ノーマライゼーションの理念とインクルージョンの考えに基づく学童クラブ運営と統合育成事業の推進を図る。
- (2) 障害・発達特性や配慮の必要な児童を支える関係機関との連携及び協力体制の確立を目指す。

2 令和6年度 活動報告

- ・学童クラブ登録児童が年々増加する状況の中で、障害のある児童も含め、配慮の必要な児童が増加傾向にあります。障害のある児童に対する理解の促進や、適切な対応を全職員ができることを目指し、統合育成発達障害及びその他の多様な障害に関する委員会独自の研修計画を立て、施設職員のニーズに応じた研修を予定どおり全て実施することができました。
- ・関係諸機関との連携並びに介助者派遣事業については、具体的な方策を基に継続して推進することができました。

【活動内容】

- (1) 委員会は年6回開催5月・6月・9月・11月・1月・2月
 - ・主な案件は、研修会の案内及び実施報告、ケース検討会報告、各館への巡回報告、統合育成担当者巡回報告、各ブロック情報交換及び討議
- (2) 研修会の開催
介助者研修会（2回 実施）
【第1回 講演】 7月 8日（月） ひとまち交流館京都
テーマ：「障害のある子どもの理解」

講 師：京都光華女子大学 准教授 大谷 多加志氏

参加者：71名

【第2回 講演&情報交流会】12月 5日（木）京都アスニー

テーマ：「子どもとの接し方」

講 師：京都市洛陽児童館 館長 池田 利勝氏

参加者：77名

(3) ケース検討会議の開催（8回）…全体会1回・各ブロック希望児童館—7館（7回）

・全体会は9月10日（火）に開催

テーマ：児童館でのケース検討会議の進め方について

講 師：京都教育大学 教授 田爪 宏二氏

参加者：24名

・ケース検討会議

10月 8日（火）7B 川岡東児童館 10月15日（火）6B 南浜児童館

11月12日（火）5B 梅津児童館 11月19日（火）1B 朱雀第三児童館

11月26日（火）2B 唐橋児童館 1月16日（木）3B 清水児童館

1月21日（火）4B 大塚児童館

(4) 「発達障害実践セミナー」（4回 実施）

「発達支援基礎講座Ⅰ」6月19日（水）京都アスニー

テーマ：「発達特性がある子どもの心と身体」

講 師：京都市教育委員会 総合育成支援課 専門主事 西村 猛 氏

参加者：63名

「発達支援基礎講座Ⅱ」

連続講座：1回目 7月12日（金）・2回目 9月13日（金） 京都アスニー

テーマ：「ティーチャーズトレーニング」

講 師：佛教大学教授 免田 賢氏

参加者：37名（2回目34名）

「発達支援基礎講座Ⅲ」11月15日（金） 京都アスニー

テーマ：「言語障害について」

講 師：京都市児童館学童連盟 主任厚生員（統合育成担当）岡崎 達也

参加者：63名

「発達支援基礎講座Ⅳ」2月14日（金）京都教育文化センター（予定）

テーマ：「統合育成実践交流会 ～発達特性のある子どもの保育環境を考える～」

講 師：京都市児童館学童連盟 主任厚生員（統合育成担当）岡崎 達也

参加者：61名

(5) 介助者派遣事業について

- ・大学、専門学校、障害児親の会、ボランティアサークル等へのポスター・チラシの掲示及び配架・配布依頼の実施
- ・新聞、広報誌、機関誌への募集記事の掲載
- ・毎週金曜日の登録事務の実施

(6) 担当主任児童厚生員の巡回業務について

- | | |
|-----------------|------|
| ・学童クラブ登録児童の行動観察 | 163回 |
| ・事例検討会・研修会 | 38回 |
| ・関係機関協議 | 42回 |
| ・保護者相談 | 79回 |
| ・乳幼児クラブの保護者相談等 | 78回 |

4 広報活動

1 令和6年度 事業目標

- ・児童館・学童保育所の役割や取組を広く市民に周知し、親しみを持たれる情報媒体を作成し、事業の正確な浸透を図ります。
- ・連盟の広報誌「キッズステーション」は、市民に対し児童館・学童保育所の活動をより深くPRすることを目的に、より市民の目に留まるよう紙面を工夫し発行します。
- ・「れんめい ニュースレター」は職員情報誌として、職員研修会の報告、連盟の各委員会、理事会等の動きを正確・迅速に伝えることを目的に発行を行います。また、委員会の進捗状況やブロックからの投稿記事等を積極的に掲載することで施設間の情報共有を図ります。
- ・児童館・学童保育所の活動及び当連盟の事業をPRするために実施しています。それぞれの館・所の魅力や利用者にとって参加したくなる取組を市民にスピーディかつ身近に伝えていけるように、各児童館・学童保育所で独自にホームページを更新できる環境づくりを支援します。また、デジタルコンテンツ化したホームページ作成マニュアルの活用を促進し、職員のスキルアップを支援していきます。

2 令和6年度 活動報告

- 1 委員会の開催（7回）…①5月15日 ②6月28日 ③8月28日 ④11月8日
⑤1月9日 ⑥3月6日
- 2 広報誌「キッズステーション」の発行
 - (1) 発行回数：年2回（4月・10月発行）8号・9号
作成については、9号・10号
 - (2) 発行部数：1回につき、約14,000部

- (3) 配付先 : 各児童館・学童保育所、育成推進課、福祉・教育関係機関及び団体、各区子どもはぐくみ室、市内19箇所の図書館、報道関係、京都学・歴彩館、連盟理事・監事等(約90箇所)

[主な記事]

- 9号(10月) : 「つながる!じどうかん 防災編」
10号(4月) : 「子どもの魅力がいっぱいの児童館の日常をご紹介します」

3 職員情報誌「れんめいニューズレター」の発行

- (1) 発行回数 : 年12回(毎月10日発行) 334号~345号
(2) 発行方法 : 発行を知らせる全館所メールとアルファオフィスへの掲示、関係機関へは郵送
(3) 送付先 : 育成推進課、関係機関、連盟理事監事等 (16箇所)

4 ホームページ「京都市の児童館」の活用状況

- (1) 児童館・学童保育所の活動及び当連盟の事業をPRすることを目的とします。
(2) 当連盟の事業に関する情報についても随時更新を行いました。

5 とびだせ!やんちゃんねるの運営

1 令和6年度 事業目標

京都やんちゃフェスタの開催が見合わされる中、やんちゃフェスタの開催趣旨を踏まえ、年間を通じた特設サイトとして運営しました。

2020年度以降、3年間にわたってやんちゃフェスタに代わる取組として開催してきた、WEBを用いた中で培った遊びなどの動画を活用し、インターネット上でいつでも楽しんでもいただけるコンテンツとして開設しました。

2 令和6年度 活動報告

*令和5年12月1日~常設での実施。

動画投稿数 : 263

総視聴回数 : 133,885回

チャンネル登録者数 : 398

6 子育て支援のための普及事業・京都市はぐくみ憲章の啓発活動

1 令和6年度 事業目標

子どもたちの社会性の向上と自立の促進を図り、児童の健全育成と子育て支援の活動を充実させるとともに、親と子の絆を深めることを目的とする公益目的事業として、広く市民を対象

としたイベント「親子でニコニコ笑顔いっぱい」を開催します。子どもを健やかに育む社会を目指し市民共通の行動規範として京都市が制定した「子どもを共に育む京都市民憲章（京都市はぐくみ憲章）」の普及啓発も併せて行います。

2 令和6年度 活動報告

「親子でニコニコ 笑顔いっぱい」～親子で楽しむ！クラシックコンサート～

日 時：令和7年1月25日(土) 11:00～15:00

会 場：京都コンサートホール アンサンブルホールムラタ（京都市左京区）

公演内容：「京都市はぐくみ憲章ステージ」「クラシックコンサート」

出 演：京都市交響楽団メンバーによるアンサンブル 京都しんふおにえった

後 援：京都市・京都府

子どもを共に育む京都市民憲章(京都市はぐくみ憲章)の普及啓発のためのイベントとして、午前の部・午後の部の2回公演を実施しました。

今年度は会場収容人数の1,000名で募集したところ、約2,300名の応募があり抽選で参加者を決定し、当日は852名が参加しました。

来賓の京都市長から市の子育て支援施策に対する取組などについて御挨拶をいただいた後、京都市はぐくみ憲章啓発ステージと親子で楽しむクラシックコンサートに、子どもたちは音楽に合わせて体を動かしたり、一緒に歌ったり大喜びでした。

終了後のアンケートでは、「本物の音楽を聴く機会がなかなか無いのでとても良かった。」「子どもが6ヶ月で初めてのコンサートだったが泣かずに聞いてくれて私も楽しかった。」「大人も子どもも楽しめる曲がたくさんありとても良かった。」等の声が寄せられました。

「第12回 京都子ども将棋交流大会」

令和4年度の実務担当者会議にて、令和5年度以降の開催時期の変更に伴う協議が行われ、協議の結果、令和6年夏開催とすることにしました。

背景として、令和4年度の開催が令和5年3月であるため、令和5年度の夏開催とした場合、準備期間が短いこともあり、令和5年度の開催は見送り、令和6年度から夏開催とすることとなりました。

開催時期の変更については、令和6年1月に各施設へメールにて周知しました。

<第12回 京都子ども将棋交流大会について>

○開催日時・開催方法

予 選 各児童館・学童保育所にて本選に臨む選手を決める予選を実施する。

本 選 開催日時：令和6年8月10日(土) 10時～16時

場 所：北野天満宮 風月殿

○参加人数（申込数）

予選 42施設 460名

本選 各部64名 128名

保護者等引率者 141名 （当日参加者 合計269名）

7 大学と連携した学習支援事業

1 令和6年度 事業目標

本事業は、「子どもの学力・学習等の状況」、「子どもの自己肯定感」に関する課題に着眼し、これらの課題に対して、地域の子どもたちへの学習支援に取り組むものとし、大学生ボランティアの力を生かし、保護者以外の大人との関わりの機会を通じて、自己肯定感を高め、子どもの孤立化の解消を図ります。

2 令和6年度 活動報告

(1) 事業の実施体制

児童館：施設の提供、学習支援事業のコーディネート

大学生：子どもへの学習支援、相談支援

京都市：事業への助言、技術的指導等の支援

児童館学童連盟：事業を実施する児童館のサポート

(2) 実績

令和6年度は、連携大学である京都橘大学の文学部と連携し、ボランティア活動体験の学生を近隣の児童館とつなぎ、大学生に学習支援事業を体験する機会を作りました。

8 学童クラブ利用料算定事業

1 令和6年度 事業目標

京都市の学童クラブ利用料金は、登録者が利用する内容に応じた応益負担制となっています。連盟事務局では委託を受けた児童館・学童保育所の利用料算定事務を、公平・適正かつ速やかに実施することを目標に業務を進めます。

2 令和6年度 活動報告

学童クラブの登録児童数は従来から増加傾向にありましたが、「子ども子育て支援新制度」開始により利用対象児童が小学校6年生までに拡大されたことを受けて、利用者ニーズは拡大を続け、令和6年度の登録児童数は16,800人を超えています。

また、令和4年度には利用料金の体系が応能負担から応益負担に大きく変更となり、利用日が平日のみか土曜日利用もあるか、利用時間が17時までか18時30分までかによって月額の基本料金が決まったうえで、配慮が必要な世帯や多子世帯等に対する軽減措置が適用される料金体系となりました。この制度改正に伴い、利用時間や曜日の変更による利用料金の変更機会が増えたことや、減免対象世帯における年度途中での申請が必要となったこと等、新たな事務負担も生じています。

さらに、WEBのみで登録申請の手続きができるように整備し、利用者には便利になった反面、利用料金を算定するためには必ずWEBのデータを確認する必要性が発生し、WEBデータの入力ミスの確認、問合せ、修正作業、決定書の発行し直し等、従来にはない事務負担が発生しております。

連盟事務局では加盟団体における事務が滞ることのないよう、利用料金算定システムの整備を行い、迅速に利用料金の決定通知を施設に届けられるよう努めました。特に1月から3月にかけては、令和6年度の料金算定事務と並行して令和7年度に学童クラブに登録される世帯の利用料金の算定も行い、例年は4月中旬に通知していた当初の利用料金決定通知書を3月27日に発送することができました。

9 京都市家庭ごみ有料指定袋無償配布事業

1 令和6年度 事業目標

連盟は京都市から新生児出生世帯に対する配布窓口事務を受託しています。

市内全児童館でスムーズな配布事業を遂行するとともに、新生児を持つ世帯に対し、児童館が実施している乳幼児対象事業及び子育て支援の機能について、周知広報することを目標とします。

2 令和6年度 活動報告

(1) 配布対象

京都市内の新生児を養育する世帯で、京都市保健福祉センターから届けられる「出産お祝いレター」の受取世帯を対象とします。

(2) 配布内容

出産お祝いレターに同梱されている「家庭ごみ有料指定袋無料引換券(新生児減免用)」を児童館に持参された保護者に対して、指定袋(燃やすごみ用)「30リットル袋40枚」、又は「20リットル袋60枚」の引換配布を行いました。その際、保護者に対し、児童館の乳幼児対象プログラムを記載したPR用のチラシ等を配布し、児童館の利用を促すためのPRを行いました。

(3)引換実績

児童館では毎月末に集計を行い事務局に報告、事務局では全館集計の結果を環境政策局資源循環推進課へ報告を行いました。令和6年度の総引換え件数は1,187件となりました。

10 無料職業紹介事業

1 令和6年度 事業目標

児童館・学童保育所における人材の確保を進めることを目的に、平成31年1月に厚生労働大臣の許可を受け、「無料職業紹介 児童館人材マッチングセンター」を開設し、5年が経過したなかで、登録会員数、マッチング数も徐々に増えてきています。その中で、求人者（人材を求める運営団体）のニーズをきめ細かくリサーチし、連盟加盟各団体の児童館・学童保育所における人材確保を通じてその事業実施支援に努めていきます。

2 令和6年度 活動報告

児童館人材マッチングセンターのPRを推進するため、会員児童館の協力を得て、実際に児童館で働く職員が児童館職員として働くなかで感じた「やりがい」に関する声を掲載し、児童館職員という職業の魅力を知ってもらえるように作成されたパンフレットを活用し京都の各大学のキャリアセンター等へ配架協力をお願いし広報に力を入れています。

マッチングセンターに来所される方の希望を聞き出し、ていねいな紹介業務を行っていることにより、複数回相談に来所される方も多く、その都度適切な御案内をしております。

求職者よりも求人数が圧倒的に多く、児童館業界における人材不足を強く感じます。

また、就職フェア（京都市保育園連盟主催）に2回参加し、希望する会員の求人情報を持参し、来場者にPRを行いました。

さらに、京都府が主催する「京都ジョブパーク」とも企業応援団登録という形で連携し、より幅広い人材を児童館に迎え入れる窓口を設けました。

今後はSNSの活用等、新たなチャンネルを模索し、訴求力を上げていく必要があります。

マッチングセンター広報活動「大学キャリアセンター等へのパンフレット配架実績」

池坊短期大学	50部
京都橘大学	30部
文教大学	30部
花園大学	30部
京都女子大学	5部

11 大学生等職業体験事業

1 令和6年度 事業目標

児童館・学童保育所における人材の確保については困難な状況が続いています。その中で、京都芸術大学、京都橘大学、京都市、連盟の4者が連携協定を締結し、児童館において職業体験事業を行うことで、学生ならではの発想や行動力を生かした児童の健全育成活動の活性化や、大学生の知識や技術の向上、人材の育成を図り、児童館で働きたいといった意欲を持つ学生を今まで以上に増やすことを目指しています。

2 令和6年度 活動報告

令和6年度は、京都橘大学から3名の参加があり、3箇所の児童館で職業体験事業を行い、京都芸術大学からは8名の参加があり、4箇所の児童館で職業体験事業を行いました。それぞれの大学と連携を図りながら行い、参加した学生には、①地域における児童館の役割について ②児童館職員の役割について を事前のガイダンスや事前オリエンテーションで説明し、児童館職員として働くことの魅力を伝えながら進めていきました。実際の体験活動の際には、子どもたちとの関わりや事業体験だけではなく、職員会議への参加等、児童館で働くことを意識できる内容を取り入れながら行いました。

京都橘大学職業体験事業スケジュール

項目	内容
事前学習 (6月初旬)	・インターンシップに向けた基礎的準備学習 ・エントリーシートなどの提出書類の作成
オリエンテーション (6月22日)	・インターンシップの流れ ・目的、目標の参加学生同士での共有
施設訪問 (7月初旬)	・施設の説明 ・エントリーシートの提出
実習 (7月29日～9月7日)	・就業体験
事後報告会 (12月)	・振り返り

京都芸術大学職業体験スケジュール

項目	内容
事前ガイダンス (8月1日)	・事業ガイダンス ・研修「こどもの生活と児童館の活動」

	・ 質疑応答
施設での職業体験	・ 8月19日～9月6日（内5日）
事後報告会 （9月20日）	・ 体験の振り返り資料をもとに、体験事業を通じた気づきを共有

12 フードドライブ事業

1 令和6年度 事業目標

食品廃棄（フードロス）の削減に向けた取組として、令和4年度から本格実施を行っているフードドライブについて、児童館・学童保育所が取り組むにふさわしい事業として実施しました。

2 令和6年度 活動報告

令和6年度は、全館所を対象にブロックごとに実施し、全体で約1.4トンの物資が集まり、NPO法人セカンド・ハーベスト京都を通じて必要とする方々に届けられました。

ブロック	実施期間	回収量（kg）
1ブロック	5月13～18日	347.4
2ブロック	6月10～15日	140.0
3ブロック	9月9～14日	276.2
4ブロック	10月15～19日	74.9
5ブロック	11月11～16日	172.0
6ブロック	1月14～18日	275.6
7ブロック	2月10～15日	95.7
合計		1381.8

また、京都府消費生活安全センターと連携し、大学生による食品ロスについての出前講座を全ブロックで行いました。

ブロック	施設名	講座実施日
1	上京児童館	8月22日(木)
2	修徳児童館	6月11日(火)
3	高野児童館	10月15日(火)
4	大塚児童館	9月9日(月)
4	醍醐児童館	2月13日(木)
5	梅津北児童館	11月13日(水)
5	横大路児童館	1月16日(木)
7	川岡東児童館	2月4日(火)

いずれの取組も、子どもたちがフードロスについて興味を持ち、自らにかかわる問題として考えていくきっかけになりました。

13 京都市ファミリーサポート事業

1 令和6年度 事業目標

近年、共働きでの子育て環境は整いつつあるものの、保育園、幼稚園の保育時間と保護者の就労時間との間に依然として齟齬があります。加えて習い事等の増加により依頼会員のニーズは多様化しており、その幅広いニーズに応えるためにも提供会員の確保と定着を図ることが大きな課題となっています。

そこで、いくつかの「ブロックやんちゃフェスタ」にブース展開し、幅広い市民にファミリーサポート事業をPRする取組を行うと共に、ホームページを随時更新し、幅広い層に訴求する取組を強化します

依頼側、提供側の会員が双方ともに安心して活動できるよう提供会員に対して救命講習の受講を促します。また、提供会員同士で悩みを共有できるような交流の場を設け、活動に対する不安を少しでも和らげ、安心して活動に臨めるような機会を検討します。

さらに、今年度は会員活動をリードしていただく「地域リーダー」を令和5年度と比較して増員を図り、会員の声をセンターの運営により反映する取組を推進します。

2 令和6年度 活動報告

(1) 会員の登録数と活動内容

① 会員数（令和6年度末現在）

会員種別	年度末会員数 (人)
依頼会員	4,456
提供会員	938
両方会員	140
合計	5,534

② 活動数

	令和6年度
活動総数	7,851回

③ 活動内容

活動内容の上位	令和6年度
1. 子どもの習い事等の援助	1,901
2. 保育施設の迎え及び帰宅後の援助	1,675
3 保育施設の登園前の援助及び送り	1,665

平成28年度までは、「①保育施設の迎え及び帰宅後の援助」「②保育施設の登園前の援助及び送り」「③子どもの習い事等の援助」が上位3位の順番でしたが、平成29年度から「子どもの習い事等の援助」が2位となり、令和5年度から「子どもの習い事等の援助」が1位となりました。

(2) レベルアップ講習会の開催について

① 事故防止のための救命講習の開催

「普通救命講習Ⅲ」については受講者を増やすため、6回開催し、未受講者へ受講を促しました。

② 資質向上のための講習会の開催

「食生活と栄養」、「発達特性のある子どもへの対応」「子どもの事故防止研修」を開催しました。

(3) ホームページの更新について

会員数、活動数、登録会・講習会の開催について、毎月初に最新のデータに更新を行いました。

(4) 啓発活動について

「児童館・学童保育所まつり」にブース展開し、幅広い市民にファミリーサポート事業をPRする取組を行いました。

内 容：魚つりゲームとリーフレットを利用した事業のPR

	第3ブロック 児童館・学童保育所まつり	第2ブロック 児童館・学童保育所まつり
日 時	令和6年5月18日(土)10時～15時	令和6年10月26日(土)10時～15時30分
会 場	宝ヶ池公園 子どもの楽園	梅小路公園 七条入口広場
参加者	乳幼児親子120組 学童40人	乳幼児親子110組 学童30人

(5) 会議・登録会・講習会・交流会等実績

①会議

会 議	内 容	時間数	回 数
地域リーダー会議	広報活動の準備、登録会・講習会での体験談の報告内容の調整 等	2時間	11回
支部長会議	統括、次年度の計画 等	2時間	1回

②登録会・講習会

登録会・講習会	内 容	時間数	回 数
登録会（本部3回・支部45回）	依頼会員に登録するための登録会	1時間	48回
講習会（本部2回・支部3回）	提供会員に登録するための講習会	6時間30分	5回
レベルアップ講習（実技）	普通救命講習Ⅲ	3時間	6回
レベルアップ講習（講義）	食生活と栄養	1時間30分	1回
レベルアップ講習（講義）	発達特性のある子どもへの対応	2時間	1回
レベルアップ講習（講義・見学）	子どもの事故防止研修	1時間30分	1回

II 施設運営

1 児童館の運営

1 令和6年度 事業目標

令和2年4月から「京都市はぐくみプラン」が施行され、児童館に対する子育て世帯ならびに市民の期待はますます高まりを見せています。また、令和3年3月には、「京都市児童館活動指針（第4次改訂版）」が策定され、今後の児童館・学童クラブ事業の方向性が示されました。そして、令和5年4月にはこども家庭庁が発足され、こども基本法が施行される中で、こどもまんなか社会を目指した国の方針が打ち出され、子どもの権利を尊重した関わりの重要性が再認識されています。

そのような中で、連盟が運営する8箇所の児童館は、下記に掲げる方針・目標を設定し、地域の関係団体とも連携を密にし、市民の期待に応えられる児童館運営に取り組みます。

また、職員一人ひとりのコンプライアンス意識の向上、資質の向上に取り組み、職員の研修機会を積極的に設けていきます。

2 令和6年度 活動報告

各児童館の令和6年度の事業目標と成果は下表のとおりです。幅広い年代のニーズをつかみ、学校や地域の関係機関と連携を図りながら活動を進めるとともに、各館の個性を生かして「こどもの意見表明」を意識した「こどもまんなか」を実現するための模索を深めたことが伺えます。

		児童館事業	学童クラブ事業
壬生児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○気軽に立ち寄り、地域に親しまれる児童館となれるよう、乳幼児クラスや子育て支援講座等の充実を図ります。 ○遊びを通して、子どもたちの健全育成と社会性の向上を目指します。 ○地域の関係機関と情報を共有し、連携を深めます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣を身につけ、遊びや集団生活を通して協調性や自主性を養います。 ○子どもたちが主体的に活動し、一人ひとりが活躍できる機会や場となるように努めます。 ○保護者が安心して預けられるよう信頼関係を築きます。 ○学校や地域、関係機関と連携を図ります。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○登録制の乳幼児クラブでは、0歳児クラスの利用者が増え、取組後のランチタイムも一緒にゆっくり過ごされるなど、子どもだけでなく、保護者同士の交流が深まりました。 ○毎月の子育て支援講座の1つとして、母親同士で結成した歌のサークルによるコンサートの機会をつくることができました。コロナ禍を経て5年ぶりのコンサートは大盛況で、来場者の中にはメンバーに入りたい方も出るほどでした。今後も利用者が一緒になって楽しめる内容を工夫していきたいです。 ○実習中の大学生による防災教育やフリーマーケットの開催、小学生と乳幼児親子の要望から、実習生との交流の取組をすることができました ○卒館生の高校生は、遊びや学習支援のボランティア活動をしたいと通い、秋祭りには工作ブースを担当し、大盛況でした。いろいろな人が気軽に集える場所として、今後も地域と共に取組を充実させてまいります。 	<ul style="list-style-type: none"> ○お誕生日会や大きな行事の中で、子どもたちの「やりたい」気持ちを大切にし、どの子にも出番があるように工夫してきました。それぞれの役割を果たすことで自信に繋がり、友達のことを認め合い、周りのことも考えて行動することが増えました。年度末には学年ごとにこども会議を開き、振り返りと今後について話し合うことができました。「自分たちが（職員も一緒に）創っていく学童クラブ」という意識が強まりました。今後も学童クラブにしかできない子どもたちのドキドキワクワクを創っていきたいと考えています。 ○秋祭りでは、運営協力会・社会福祉協議会・民生児童委員の方々・みぶ会保護者などの協力を得て、キッチンカーも含めた食べ物ブースの復活が実現しました。こどもたちも模擬店の準備から当日の役割まで班メンバーで協力しながら取り組み、買い物も楽しみました。お店をする側の大変さや、人と協力することの難しさも経験すると同時に、多くの人とも交流が図られました。 ○登録制の教室・クラブでは、真剣に練習と向き合い、メンバーの一員となって頑張る姿や、本番で力を発揮する姿が見られました。

	目標	<p>○身近にある児童館として気軽に立ち寄り、子育て相談や仲間づくりができるよう支援します。</p> <p>○子ども自身が企画し考える力を伸ばせるような取組をすすめます。</p> <p>○情報収集をしっかりとニーズに合わせた思春期児童の居場所を確立します。</p>	<p>○基本的な生活習慣や社会性を身につけられるように段階をふまえ指導します</p> <p>○子ども達が主体となれるような取組をふやし生活場面に応じた行動力をはぐくみます。</p> <p>○縦割りを意識し、3年生以上のリーダーシップを育てます。</p>
七条第三児童館	成果	<p>○乳幼児クラブ、あそびの広場ともに多くの参加者があり、仲間づくりの一端を担うことができました。また、近隣の公園へ出向き「出前児童館」を何度か実施したことで、児童館の周知やその後の利用につながりました。また、乳幼児フェスやイベント等、多角的な取組を増やした結果、児童館の専門性など活動内容を知っていただくことができました。</p> <p>○児童の発達や心のケア等について専門性をもった外部の方からアドバイスをいただきながら職員のスキルを高めるように努めることで、日常の利用者へのサポートにつながりました。</p> <p>○来館児童の思いや意見を受ける活動を意識的に作り、行事や日常の取組で企画が実現できるような体験の機会を多くつくりました。活動しやすい環境をつくることで体験の幅が広がり、自主性・主体性の育成につながりました。</p> <p>○中高生には継続的に関わり、話し相手となるよう関係を築きました。日常的な居場所づくりに加え、児童の「やりたいこと」を実現させたりイベントを増やしたりすることで継続的な利用につながり、多世代交流等へ活動展開することができました。</p>	<p>○学年ごとに昼食やおやつの時間を区切ることでその年齢に応じたルールやマナーを体験的に学習しました。特に1年生はランドセルのしまい方や荷物の整理、学習など4月のうちに丁寧な説明する等、積み重ねを経て基本的な生活習慣を身につけることができました。また、遊びを通して社会性の育成に努めました。</p> <p>○子どもたちの意欲や意見の尊重を意識した取組が実現できるよう支援しました。特に、児童館のルールについて、子どもたちが意見を出し合う「子ども会議」を設け、熟考し決定から周知までをすべて担った活動は子どもたちの主体性・社会性を養成する体験となりました。また、あそびの大会や季節行事等、職員が計画するのではなく子どもたちが予定と内容を組み立て、子どもたちの発信で活動できる場面を意識的に増やしたことで主体性が育まれました。</p> <p>○各学年会議を中心に、それぞれの目標をたて、その後学童クラブ全体の目標につなげていきました。特に3年生以上には活動の企画・運営を任せ、中心となって実施する体験を重ねることで、他者との関わり方を学び、仲間意識や責任感、自主性が育まれました。</p>

	<p>目標</p>	<p>○児童館活動において、学童クラブ児童とともに自由来館児童にもさまざまな遊びの体験の機会を提供し、一人ひとりの児童が個性豊かでたくましく、思いやりのある人間として成長できるよう、主体性と自ら判断し決定する力を育てます。</p> <p>○乳幼児の保護者同士の交流の機会を設ける等、子育ての仲間づくりの場となるよう人と環境、相互に働きかける視点を持って活動を行います。</p> <p>○子どもと地域住民の世代間交流等の推進に取り組み、より敷居の低い児童館づくりを目指します。</p>	<p>○日常生活の中で子どもの自立を積極的に促進し、さまざまな生活場面に応じた判断力、行動力を育めるよう支援します。</p> <p>○あそびや活動を通して、子どもが達成感や学童クラブへの所属感を得られるよう支援します。</p> <p>○保護者の就労等の生活を継続的に支える安心安全な支援を推進します。</p>
<p>今熊野児童館</p>	<p>成果</p>	<p>○小学生を対象としたクラブ活動や竹馬道場、検定といった各種の行事を通して、子ども同士がお互いに思いやりを持って行動すること、自らチャレンジすることで達成感を感じられるようにすること、を中心に支援し、主体性と自ら判断し決定する力を育てることができました。</p> <p>○乳幼児登録制クラブの活動を通じて、気軽に参加、相談しやすい雰囲気づくりに努め、孤立感や不安を感じやすい子育て家庭への支援を推進し、東山区での子育て支援の取組の利用促進も図ることができました。</p> <p>○児童館まつりなどの行事を通して、地域の方々に多くの参加をしていただき、地域での世代を超えた交流を推進し、地域の中の児童館という意識を高めていただくことができた。今後も、地域の方が気軽に訪れることができる場所を提供できるように努めます。</p>	<p>○縦割りのグループ活動を通して、上級生はリーダーシップを発揮して下級生をサポートし、下級生は上級生の姿を見てどのように行動すればよいかを学べるよう、支援、援助を行い、自分たちで、用意や片付けなどを役割分担して行うようになるなど、子ども一人ひとりの状況に応じた「生活力」を獲得させることができました。</p> <p>○保護者の状況に配慮し、ICTを積極的に活用するほか、従来からの電話やメールによる連絡手段の併用、お弁当いらぬデー等の実施による負担軽減等を行い、「保護者としての役割」を継続的に支える援助を推進できました。今後も、相互の信頼関係を醸成できるよう、努めてまいります。</p>

四ノ宮児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○地域との連携を促進し、地域の方々に信頼され、親しまれる児童館を目指します。 ○地域各種団体と情報を共有しながら、地域、利用者のニーズに応えられるよう活動を行います。 ○児童館の取組を通して、地域の方々の多世代交流を促進します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異年齢集団での生活や遊びを通して、児童が主体的に活動し、社会性を身につけられるように支援します。 ○児童、保護者にとって、安心できる居場所、生活の場となるよう努めます。 ○児童一人ひとりへの理解を深め、保護者や関係機関と連携し、個々の状況に合わせた支援を行います。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児クラブは、参加者が減少する中、クラスをまとめ、参加していただく回数を増やす等して、親子で楽しんでいただくことができました。また、児童館の取組を通して、保護者同士がつながる機会となりました。 ○各クラブ活動は内容が充実し、ジュニアクラブ児童は、乳幼児親子向けのイベントの企画・運営をする等、子どもたちが主体的に活動する場面が増えました。お習字クラブも、新聞に作品を掲載していただく等、子どもたちのやりがいにつながっています。 ○地域の取組にも積極的に参加し、ソーランの踊りを披露させていただく等して地域の方々と交流することができました。 ○児童館の様々な取組を通して、地域の方々との交流を図ることができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高学年児童が、リーダーシップを発揮し、様々な活動の中で、低学年児童を引っ張っていく姿がみられました。 ○自分でできることは自分で行うこと、児童自身が考え、自分で決めることを働きかけ、子どもが主体的に活動することが増えました。 ○手洗い・うがい・消毒や、宿題に取り組むことが、日常の習慣として身につけています。 ○子どもたち一人ひとりを理解するよう努め、個々に合わせた対応を心掛けました。また、保護者の思いを受け止めながら、小学校や関係機関と連携して支援を継続しました。

梅津北児童館	目標	<p>○利用者からの多種多様なニーズに応えられる多機能性を生かし、地域全体で子どもを育てていくための中核的役割を果たします。</p> <p>○地域に寄り添い、地域の拠点となり広報に努めるとともに子どもの最善の利益を優先し、「こどもまんなか」を意識した育成を目指します。</p>	<p>○学童クラブを「安心できる居場所・拠り所」として確立していきます。</p> <p>○異年齢集団としての連帯感を深めるとともに、互いの違いを認め尊重し合える関係を築きます。</p> <p>○個々の状況に応じた支援のもと、自立に向けた生活習慣を身につける力を育みます。</p> <p>○家庭や関係機関と連携し、保護者が安心して子育てできるよう支援します。</p>
	成果	<p>○「乳幼児クラブ」や「広場活動」を通して子育て家庭のつながりを大切に取り組みました。今年も転入してこられた方や第一子の保護者にとって地域の情報が得やすいように保護者同士の関係をつなぐことを意識した支援をしました。その結果、クラブや広場後も「ランチタイム」や「カフェタイム」を落ち着いた情報交換の場として利用いただくことができました。</p> <p>○学校や地域との連携事業を充実させました。特に社会福祉協議会の皆様と連携を図り、独居高齢者の方へ向けて子どもたちが植えたお花を届ける取組は大変好評をいただきました。</p> <p>○子どものやりたい声を拾い「ぬりえ大会」「紙飛行機大会」等を実施しました。特に「おばけやしき」は高学年の意見も多く取り入れ準備を進め、当日は親子の参加者も多く、準備した子どもたちの満足度も高い行事となりました。</p>	<p>○今年もメッセージアプリを用いて日々の子どもの様子を丁寧に伝えて情報を共有することで「安心できる居場所」づくりに努めました。さらに、学童クラブの保護者同士をつなぐことを目的の1つとして開いた交流会では、みんなあそびを体験していただく日や、いちご狩りとケーキ作りをする日があり保護者同士の交流を促すことができました。</p> <p>○3年生会議を月1回定例化して、みんな遊びの進行を3年生中心に進めてもらい、学童クラブの年長という意識をもつよう促していきました。1年間続けていくことで異年齢集団の連携を深めていくことができました。</p> <p>○日常から小学校との情報共有はしていますが、今年は夏休み前に各クラスの教職員の方と情報交換を行い、長期休業中のきめ細かな支援につなげることができました。</p> <p>○年度後半より、育成室や廊下の清掃を子ども達と毎日行うことにより、特に整理整頓の意識づけを促すことができました。</p>

西京極西児童館	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○来館者にとって居心地の良い場所を提供できるように努めます。 ○職員の個性を生かした取組計画を立案し、子どもの主体性や積極性を育みます。 ○地域や関係機関との連携を密にし、信頼関係を築きます。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の場として居心地のよい場所作りと異年齢とクラス別をいかした活動を心がけます。 ○学童クラブ修了後の生活を見据えた活動を行えるよう支援します。 ○保護者との信頼関係を大切にし、日々の声掛けを意識し寄り添えるように努めていきます。
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児親子に対して、クラブ以外の自由あそびの日にも丁寧な声かけを心掛けました。保護者との会話を通して、日頃の育児の悩みや、保護者同士を繋げ、児童館にも足を運びやすい雰囲気作りに努めました。また、利用者満足度アンケートの意見を参考に、子育て講座の内容を計画・実行し、喜びの声を聞くことができました。 ○登録制クラブの継続と、新たなクラブも発足し、多様な子どもに対応できるよう、選択肢を増やしました。また、子どもたちが積極的に取り組めるよう、子どもたちの声に耳を傾け、プログラムを立案しました。 ○地域や学校のイベントや会議への参加、地域の方を児童館の取組に講師として招くことで、子どもたちとの交流を図り、日頃の様子を知っていただく機会を作りました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスの目標を決め、クラス対抗で取組を行うことで、子どもたちの集団活動に対する意識を高めました。 ○児童館生活をより過ごしやすくするため、3年生会議、高学年会議を行い、学童クラブについて考える時間を持ちました。少人数での特別なイベントを実施し、積極的に子どもたちが意見を出し合えるよう、会議を運営しました。 ○個人懇談会等で、休みの日等児童館外での過ごし方の相談に乗り、自立に向けて提案しました。 ○細かいことでも保護者と連絡をとり、日々の様子を伝えることを心掛けました。児童館まつり等の親子参加型イベントには、クラブの作品を展示し、保護者にも足を運んでもらいやすい機会を増やすことで、たくさん参加していただくことができました。

南 浜 児 童 館	目 標	<p>○遊びを通じて子どもたちの健全な育成と社会性の向上・自立心を養います。</p> <p>○地域の各種団体と連携し、子育て家庭の支援に力を入れると共に、地域の方々と交流を図ります。</p> <p>○中高生世代の居場所作りを促進します。</p>	<p>○子どもたちのおかれている状況を把握し、保護者・学校・地域と連携しながら、社会性を養い、基本的な生活習慣を確立させます。</p> <p>○集団生活の中で自立心・責任感を育成し、協調性を養います。</p>
	成 果	<p>○今年度は、一般来館者が戻ってきたように思います。まだ罹患の報告はありますが、人数制限も解除し楽しく遊んでいました。児童館が来館者にとって、安心・安全な居場所であるためにこれからも工夫をして来年度に繋げたいと思います。</p> <p>○地域の行事も開催に向けて話し合いを進めていましたが、今年度も中止になる行事があり、来年度について話し合いを継続していくことで終わりました。</p> <p>○中高生クラブは、毎月、少人数ではありましたが、参加者は楽しく過ごせました。</p> <p>○乳幼児クラブは、「たんぼぼ・ひだまりクラブ」については、昨年同様予約制で、10組から15組に参加人数を増やして開催しました。その他の行事も人数制限を解除して開催し、参加親子には大変喜んでいただけました。ランチタイムも子どもを連れていける場所が少ない中、保護者の方も喜んで利用され、知り合いとゆっくり話ができることに喜んでいただけました。また、本の貸し出しが浸透し始め、楽しみにしている幼児さんもいてよかったです。</p> <p>○秋には、飲食抜きでしたが、お化け屋敷等「みなみはまパーク」を開催し地域の方との交流ができました。</p>	<p>○例年以上に保護者・学校との連携は密に行いました。地域とは、行事の中止が多い中、「生涯学習フェスティバル」に参加し、行事を通じ学童クラブ登録児童と地域住民との交流が少なくなりました。</p> <p>○新1年生の登録数が多く、2年生以上も退会が少なく、常にバタバタした一年になりました。</p> <p>○5類に移行しても、インフルエンザ・コロナウイルスのため、マスクが外せず付けている児童が多くみられました。着用については、保護者と相談して決めてもらい、咳が出る時は、着用を指示しました。</p> <p>○目標に掲げている「集団生活の中で自立心・責任感を育成し協調性を養うこと」については、職員が声を掛け、上級生が下級生のお世話をする等、集団生活の中で培うことができました。</p> <p>○夏は猛暑・酷暑で、外に出る危険を考え、館庭での遊びを控え、室内での遊びを充実させました。熱中症対策として、絶えず水分補給を促し、体調管理に配慮しました。</p> <p>○秋には、「みなみはまパーク」・「伏見子どもまつり参画」、冬には4年生以上は、一泊キャンプを3年生までは、お出掛けと行事を広げることができました。</p>

横 大 路 児 童 館	目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○子育て支援事業の充実を図り、利用者に寄り添った活動を行います。 ○伸び伸びと活動させる中にも規律を重視します。 ○各種地域団体や関係機関との情報を密に連携します。 ○「しもよこっ子」開催団体との連携を強化します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学童クラブのルールを守ることで学びを身につけます。 ○規律のある生活習慣を身につけます。 ○手洗いなど感染対策への予防を徹底します。 ○登下館の際の安全指導を徹底し、子どもたち自身の安全意識を高めます。 ○保護者との信頼関係を築き、安心して子育てができるよう支援します。
	成 果	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児クラブの回数を増やしたことで、保護者同士の繋がりができました。イベントや行事を多く取り入れ子育て支援の充実を図ることができました。 ○一寸ぼうしの広場等の事業を通じて、地域の子育て支援活動に活動場所を提供し、地域の事業に職員を派遣することで地域との連携を図ってまいりました。 ○広場活動では一人ひとりに寄り添い、子育ての話をしやすい雰囲気づくりを意識して行いました。その中で、職員間で情報共有を図りながら施設全体として関わり続けることで、乳幼児保護者の居場所の一つとなれるように事業を進めました。 ○中高生世代には、サンタの衣装を着て乳幼児親子さんの所へ訪問してプレゼントを渡す企画し、乳幼児親子と中高生ともに喜びを感じられる取組となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年も感染対策には意識し手洗い、消毒の指導を徹底して行いました。 ○遊びやクラブ活動を通して、友だちとのかかわり方、集団生活でのルールやマナーを知り、協調性や社会性を養う機会につながりました。 ○生活習慣を意識して取り組むことで、遊びや宿題をする時間を子どもたちで意識して放課後の時間を過ごすことができました。 ○帰りの会の後に読書タイムを設けることで、絵本や児童書を読む子どもたちが増えました。 ○親子参加の取組を実施し、運動会を開催したことで、保護者同士の繋がりを作ることができました。 ○毎月のお誕生日会は、子どもたちが主体となり企画など意見を出し合い取組を行うことができました。

2 つどいの広場運営事業

京都市から京都市子育て支援活動いきいきセンター(京都市乳幼児親子のつどいの広場)の運営を受託して実施する事業です。連盟が運営する「のこちゃん広場」が立地する洛西竹の里地区は少子化が進行し、特に0歳～3歳までの未就園児親子が、自然に親子同士で交流し、仲間作りをする機会が少ない状況にあります。その中で、子育て親子の孤立を防ぐことが趣旨の一つであるつどいの広場の運営に当たって、以下の目標を掲げて事業を実施しています。

1 令和6年度 事業目標

- (1) 地域の組織と緊密な連携を取りながら運営を進め、子育て親子と地域住民が交流を促進できるイベントを継続的に実施します。
- (2) 支援が必要な子ども・家庭について専門機関との連携を密にし、解決の糸口や対応の方法を探ります。
- (3) 利用者が頻繁に立ち寄り、子育ての悩みや相談について専門知識を持つアドバイザーへ気軽に相談できる態勢づくりを行います。

2 令和6年度 活動報告

つどいの広場事業では、インスタグラムを活用した情報の発信を行い、家庭内で親子が孤立感を持つことなく穏やかに過ごせるような情報提供を行いました。また、電話や電子メール、インスタグラムDM等による子育て相談を実施しました。

利用者に安心して利用していただくために、一度に利用できる人数に制限を設けて運営しました。また、コロナ等の感染症対策として、室内の消毒、使用後のおもちゃの消毒を行うとともに、室内の換気を行いました。

交通が不便な場所のため、徒歩や自転車で子どもを連れて来られない方のために駐車場を確保し、利用者に活用していただけるように配慮をしました。

初めて来られる人だけの日を「初めての人限定日」として設定し、毎月運用することによって、新規の利用者を獲得しています。

活動としては、子育て親子のふれ合いの場として「簡単にできる手作りグッズ」等のプログラムを充実させたほか、地域からの参加者も受け入れるヨガ教室を行い、幅広い世代が子育て家庭と知り合うきっかけを作りました。

また、職員の外部研修(オンライン開催等)に積極的に参加し、市内や全国の広場のスタッフが集まる研修・会議に出席することで、子育て支援に関する知見を深めるよう努めました。

洛西地域の子育て支援施設が参集して実施する会議やイベントについては、子どもが遊ぶブースを展開し、さらに地域のスタンプラリーのポイントとしても参画し、各機関との連携を意識した事業展開を図りました。

Ⅲ 法人管理

1 会員

会員数	令和6年4月時点	54会員
新規加入		0件
退会		0件
令和7年3月末会員数		54会員

2 総会・理事会

令和6年度（令和6年4月から令和7年3月）の総会・理事会の開催経過は次のとおりです。

(1) 総会

会議の通算回数、開催日及び場所	出席者数等	議 題
第15回定時総会 (令和5年度決算総会) 令和6年5月31日 京都テルサ	会員社員総数54名 出席会員社員数43名 (うち書面による出席者22名)	○承認及び決議事項 (1) 令和5年度事業活動報告(案)の承認 (2) 令和5年度収支決算報告(案)の承認 (3) 役員選任の議決
第17回臨時総会 (令和7年度予算総会) 令和7年3月28日 京都テルサ	会員社員総数54名 出席会員社員数35名 (うち書面による出席者18名)	○決議事項 (1) 令和7年度事業計画(案)の議決 (2) 令和7年度予算(案)の議決 (3) 会費に関する規則改正(案)の議決

(2) 理事会

会議の通算回数、開催日及び場所	出席者数等	議題
第69回 理事会 令和6年5月17日 京都JAビル	理事総数 22名 定足数 12名 理事出席 15名 監事出席 3名	○審議事項 (1) 令和5年度事業報告(案)について (2) 令和5年度決算報告(案)について (3) 役員選任(案)について (4) パート・有期雇用職員給与規程改正(案)について 全て原案どおり承認されました。

		<p>○協議・報告事項</p> <p>(1) 合同入職式について</p> <p>(2) ブロックやんちゃの日程について</p> <p>(3) 指定管理者選定について</p> <p>(4) 能登半島地震児童館等支援活動レポート</p> <p>(5) フードドライブに関するテレビ報道について</p>
<p>第70回 理事会</p> <p>令和6年9月18日</p> <p>京都タワーホテル</p>	<p>理事総数 22名</p> <p>定足数 12名</p> <p>理事出席 16名</p> <p>監事出席 3名</p>	<p>○審議事項</p> <p>(1) 令和7年度京都市予算に対する要望書について</p> <p>(2) パート・有期雇用職員給与規程の一部改正について</p> <p>全て原案どおり承認されました。</p> <p>○協議・報告事項</p> <p>(1) 令和7年度やんちゃフェスタの復活に向けて</p> <p>(2) 令和6年度合同入職式について</p> <p>(3) 子ども将棋交流大会について</p> <p>(4) 親子でニコニコ笑顔いっぱいについて</p> <p>(5) 人事・給与・研修管理システムについて</p> <p>(6) 児童館等におけるアンケート・ワークショップの実施について</p>
<p>第71回 理事会</p> <p>令和6年12月20日</p> <p>京都テルサ</p>	<p>理事総数 22名</p> <p>定足数 12名</p> <p>理事出席 15名</p> <p>監事出席 2名</p>	<p>○協議・報告事項</p> <p>(1) 令和7年度京都やんちゃフェスタの復活に向けて</p> <p>(2) 市長と子どものワークショップについて</p> <p>(3) 職員充足状況調査の結果について</p> <p>(4) 指定管理者の選定について</p> <p>(5) 親子でニコニコ笑顔いっぱいについて</p>

		(6) フードドライブの実施について (7) 児童館・児童クラブ全国大会について (8) 連盟研修交流会について
第72回 理事会 令和7年3月13日 キャンパスプラザ京都	理事総数 22名 定足数 12名 理事出席 17名 監事出席 2名	○審議事項 (1) 令和7年度事業計画(案)について (2) 令和7年度当初予算(案)について (3) 京都版ミニ・ミュンヘンについて (4) 会費に関する規則改定(案)について (5) 職員給与規程改定(案)について (6) パート・有期雇用職員給与規程改定(案)について (7) 育児休業規程等の改定(案)について 全て原案どおり承認されました。 ○協議・報告事項 (1) 人事異動について (2) 令和6年度研修・交流会について (3) 令和7年度京都市児童館・学童クラブ関連予算について (4) 第19回全国児童館・児童クラブ大会えひめについて (5) 4週8休制試行実施の継続について (6) 合同入職式について

3 コンプライアンス研修会開催

職員の倫理意識向上と法人の健全な運営を推進するため、直営児童館8館の施設長、職員と事務局職員を対象に、12月10日、京都テルサにおいて、「ぷらすの時間こえだ」小林由枝氏を講

師に迎え、「コミュニケーションのコツ～アサーションを知ろう」をテーマに研修を行いました。
館長・児童厚生員・クラス主任・クラス担当・事務局職員・つどいのひろば職員ら45名が参加し、参加者同士のグループワークも含め、法人内の職員が共通の規範意識を持つきっかけとなりました。